

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価報告概要表

作成日 平成 22 年 3 月 15 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0570112342
法人名	有限会社 ケアランドあきた
事業所名	グループホームうららか
所在地	秋田市御所野元町四丁目2-3 (電話) 018-889-8211
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 22 年 3 月 12 日

## 【情報提供票より】(平成 22 年 3 月 5 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 4 月 15 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.5 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 2 × 4 造り
	2 階 建ての 1 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	運営管理費10,000円 等	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

## (4) 利用者の概要(3 月 5 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護 1	1 名	要介護 2		3 名		
要介護 3	4 名	要介護 4		1 名		
要介護 5	0 名	要支援 2		0 名		
年齢	平均	85 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	とおる内科医院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者に対し「待つこと」「寄り添うこと」「姿が見えること」などを認知症ケアの基本とし、職員がその場にいるだけで利用者に安心感を持っていただけるような立ち居振る舞い、表情等が大切であることを「見られる介護」という言葉で表現し、意識しながら日々の支援にあたっている。食事についても、新鮮な旬の食材を直接市場から配達してもらい、利用者の希望に応じながら提供している。また、そうした利用者本位の暮らしを支援するために1日の勤務者を3.5~4人と、ゆとりを持たせた人員配置とし、チームワークを大切にしながら利用者の安心、安全な生活を支えている。運営推進会議は2か月に1回開催され、会議を通じて改善に向けた取り組みを意欲的に行っている。今後も引き続き、家族等に参加を働きかけながら、活発な論議を通じてサービスの質の向上に活かしていくことも期待される。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「重度化や終末期に向けた方針の共有」については、入居時にホームで対応できる重度化・終末期支援の目安を家族に説明している。また、ホームでできる範囲でのターミナルケアの指針を示し、ケースバイケースで対応している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が職員に評価の意義を伝え、意見を聞きながら介護計画作成担当者と共に取りまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 社協地区会員、民生委員、町内会長、計画作成担当者、施設長が参加する運営推進会議が2か月に1回開催されている。昨年からの引き続き火災時、近隣との連携について継続審議中であるが、管理者はマンネリ化しないように配慮し、改善に向けた取り組みをしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に要望や苦情の投函箱を設置し、市の介護高齢福祉課や秋田県国保連の連絡先を掲示している。これまでに投函箱の利用はないが、面会や電話で直接意見や要望を受けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や老人クラブに加入し、回覧板で回ってくるイベント(夏祭り・かまくらなど)に地域住民と同じように参加している。ホーム主催の民謡サークルや認知症講座なども回覧板で地域へご案内し、地域との交流が盛んである。

## 2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初、独自に作り上げている。理念は職員が日々確認し、利用者にも安心して暮らしていただけるよう、利用者の特技を活かした毛筆で大きく書かれ、利用者の集う場所に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り時に確認している他、日常の業務の中で都度、管理者より指導を受けている。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や町内老人クラブにも加入し、回覧で回ってくるイベント(夏祭り・かまくら等)に地域住民と同じように参加している。ホーム主催の民謡サークルや認知症講座等も回覧で案内するなど、地域との交流が盛んである。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、ホームの玄関に誰でも見られるように備え付けられている。自己評価については、管理者は職員に評価の意義を伝え、意見を聞きながら介護計画作成担当者と共にまとめている。また外部評価の結果を踏まえて、改善に向けた対策を考えケースバイケースで対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>社協地区会員、民生委員、町内会長、計画作成担当者、施設長が参加する運営推進会議が2ヵ月に1回開催されている。現在、審議継続中の懸案事項もありマンネリ化しないように配慮し、改善に向けた取り組みをしている。</p>		<p>来年度からは地域包括支援センター職員の参加もお願いしている。又、家族にも働きかけをしているが、なかなか参加につながらない状況にある。家族から意見や要望を伝えてもらったり、ホームの理解と支援を得るための貴重な機会として捉え、繰り返し働きかけていくことを期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者と直接行き来する機会はないが、研修や講演の案内にはできるだけ参加している。今年度から秋田市グループホーム連絡会も立ち上がり、これを通じて市へホームの実情を伝えたり、連携を図っていく機会を作りたいと考えている。</p>		
<p><b>グループホーム連絡会も立ち上げられることから交流やホームの実情を伝える機会が作られる。</b></p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、居室担当者が手書きのお手紙で利用者の近況や健康状態について報告し、必要に応じて衣類の補充や各種予防接種等についてのお知らせをしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に要望や苦情の投函箱を設置し、市の介護高齢福祉課や秋田県国保連の連絡先を掲示している。投函箱の利用はないが、面会や電話で直接意見や要望を受けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新規採用職員については7日間のインターン期間を設け、慣れた職員が1名ついて共に支援にあたりながら、利用者との馴染みの関係を作れるように配慮している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の案内があれば積極的に参加している。研修後は報告書を作成し、全職員が共有できるように回覧している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協会主催の相互勉強会として、他のグループホームと2回の交換研修を実施した。勉強会や交流を通じて得たレクリエーションやアイデア（利用者のスペースを保つための空間作りなど）がホームの支援に活かされる等、サービスの質を向上させる取り組みとなっている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に利用者や家族に面会し、利用者のこれまでの生活から違和感なくホームに馴染めるよう、細部にわたり生活情報を得てアセスメントを行っている。また、全職員で情報を共有し、利用者が安心して暮らせるよう支援している。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>理念の一つに「共感できないと、よい介護はできない」とあり、職員は時間の許される限り利用者に寄り添い支援している。職員は食事準備の場面などで利用者に何気なく助けられることも多く、日常生活の中で自然にお互いが学び、支えあう関係が築かれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族から利用者の趣味や、特技、仕事など、これまでの生活状況の情報を得たり、日常生活の中でコミュニケーションを取りながら意向の把握に努めている。</p>		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の意見や要望を介護計画に反映させると共に、利用者個々に24時間の細かな観察と記録(血圧・体温等、健康状態、食事・水分摂取量、1日の様子など)を取り、介護計画の作成に活かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年に1回の定期的な見直しの他、利用者の状態の変化に伴い、必要に応じて関係医療機関の意見やアドバイスを取り入れながらカンファレンスを行い、随時見直しを行っている。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>レンタカーで遠方(男鹿半島・西目ハーブワールド等)へのドライブや、日常的に近所との交流の中で相談事に対応したり、利用者家族の看取り支援など、利用者や地域の求めに応じた取り組みをしている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が入居前に選択し、希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は2週間に1回、かかりつけ医の往診を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、利用開始時に家族に対して「経口摂取の可否がホームで対応できる限界の目安であること」を説明している。ホームでできる範囲内でのターミナルケアの指針を示し、ケースバイケースで対応している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報記載物は目のつかない所に保管したり、シュレッダーにかけるなど取り扱いに注意し、写真入りのホーム便りなどは外部に出さないよう指導している。従業員が業務上知りえた情報を退職後も漏らすことのないよう、誓約書を取り交わしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の体調に配慮しながら、入浴時間やおやつ、買い物など、一つ一つの場面で声をかけ、本人に確認しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、後片付けを職員と分担しながら一緒に行い、職員も一緒に食事を摂っている。メニュー担当者が考えた献立に沿って、その日その日の新鮮な旬の食材を朝一番に、直接市場から配達してもらっている。職員の負担を減らしつつ、食材の形を残したままで、しかも軟らかく、見た目からも食事が楽しめる工夫や、利用者の要望に応えられるような食事提供をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、利用者の希望を聞きながら実施している。入浴を好まない方に対しては、職員が声かけをしたり、足浴を行うなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月のカレンダー作り、食事準備、後片付けなど、一つの作業を分担しながらみんなで参加し、利用者一人ひとりが役割の中で力を発揮できるような場面を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や町内行事への参加、ドライブのほか、家族がホームを訪問し、一緒に外出したり食事に出かけることもある。管理者は利用者の希望に沿った外出支援ができるように、余裕を持たせた職員の勤務配置をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は鍵をかけていない。利用者が一人で外出した場合は、職員が携帯電話を持参し、一緒について見守っている。夜間は二階の状況や玄関をモニターやセンサーで確認し、安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時の地域との連携について、運営推進会議で継続審議中であるが、地域住民や消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施している。職員は地域の消防訓練に参加したり、救急救命士よりAED操作法、応急手当の講習を順次受けるようにしている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食時、おやつ時に摂取量や水分量を確認し、利用者個々に記録している。食事は利用者の体調や希望に合わせ、食材・大きさ・軟らかさ等の配慮や、お粥食などの対応を行っている。</p>		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>掃除が行き届いており、不快な生活臭などは感じられない。要所に加湿器を設置し、適切な温湿度の調節を行っている。限られたリビングルームの空間を活かし、複数の個所に利用者がお互い適度な距離を持って過ごせるような居場所を確保している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者の馴染みの家具やベッド、テレビ、仏壇などが持ち込まれている。利用者が安心して過ごせるよう、安全性に配慮した居室作りに努めている。</p>		

は、重点項目。